

船底也。舩は胴也、支體に法る、鋪とも云、今別て海舟をかはらと云、川舟を鋪と云は非也、東國にては、海舟をも敷と云、西國にては、川舟をもかわらと云、同事也、鋪と云は、下にまくの心か、かわらと云こと、和語にて呼來ること久し、平家物語に、ふたつかわはら三つ棟つくりたる舟にのりとあるは、胴かはら、舩かはらの二つかはらなるべし。

〔土左日記〕九日承平五年山も海も皆暮れ、夜ふけて西東も見えすして、てけのこと、梶取の心にまかせつ、男もならはぬは、いと心細し、まして女は舟ぞこに頭をつきあて、音をのみぞなく、

〔源平盛衰記 三十三〕源平水島軍事

西風烈シク吹テ、船共ユラレテ打合ケレバ、東國北國ノ輩、舟軍ハ習ハヌ事ナレバ、船ニ立得ズシテ、船底ヘノミ重ナリ入、

〔太平記 七〕先帝船上臨幸事

同シ追風ニ、帆懸タル船十艘計、出雲伯耆ヲ指テ馳來レリ、中隱岐判官清高、主上醍醐ヲ追奉ル船ニテゾ有ケル、船頭是ヲ見テ、角テハ叶候マシ、是ニ御隠レ候ヘト申テ、主上ト忠顯朝臣トヲ、船底ニヤ下シ進セテ、其上ニアヒ物トテ、乾タル魚ノ入タル俵ヲ取積テ、水手梶取其上ニ立、雙テ櫓ヲゾ押タリケル、

〔新撰字鏡 舟〕舩 不奈 太奈 野王 按、音曳、字亦作棧、大船旁板也、

〔倭名類聚抄 船具〕 野王 按、音曳、字亦作棧、大船旁板也、

〔類聚名義抄 舟〕 舩 音弦、タナ、 〔同手〕 批 音曳、フナ、タナ、 〔同木〕 柁 フナ、タナ、

〔伊呂波字類抄 雜物〕 柁 フナ、タナ、 大船旁板也、 舩 音弦、 柁 已上同

〔倭訓栞 中編 二十三〕 ふなばた 舩をよめり、舟端の義、漁父辭の柁をも古來かくよめり、日本紀に

は、船柁をふなのへとよめり、へは邊也、